

営農情報 第5号

令和7年7月11日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 コシヒカリの生育状況

平年に比べ、草丈は並み、 m^2 当たり茎数は少なめ、群落葉色は並み、葉令の展開は0.1葉遅くなっています。
現在の生育の進みから、出穂期は8月1日頃(5月12日田植えの場合)と予想されます。

表 コシヒカリの生育状況(6月30日調査)

	草丈 (cm)	茎数		葉齢	葉色	幼穂形成期	出穂期
		(本/株)	(本/ m^2)				
令和7年	62.8	21.2	441.2	11.0	4.1	(7月11日)※2	8月1日※2
令和6年	61.4	22.5	472.9	11.2	4.1	7月10日	7月31日
平年※1	60.0	23.6	496.8	11.1	4.1	7月10日	7月31日

※1 アルプス米標準田 H27~R6の平均値 ※2 カッコ内は推定値

2 コシヒカリの穂肥の目安(5月12日田植えの場合) 参照ページ:p39

高温少雨の日が続くと予想される場合は、積極的に追加穂肥を施用しましょう。

(1) 基肥一発肥料の場合

基肥一発肥料を施肥した圃場でも、葉色が淡い場合は
稲体の活力を維持するため、追加穂肥を施用しましょう。

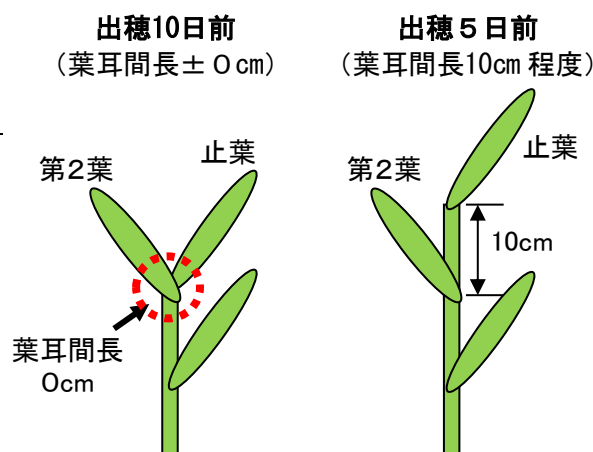
●追加穂肥の目安

指標 出穂7~10日前(7月22~25日)の葉色が
4.0(砂壤土4.2)未満の場合

施用時期 出穂7日前(7月25日)頃

肥料 追肥3号

施用量 5~7kg/10a(砂壤土7~10kg/10a)



【YouTube】
11 穂肥散布の
ポイントと
注意点



【YouTube】
12 品種別の
穂肥施用時期
と施肥量

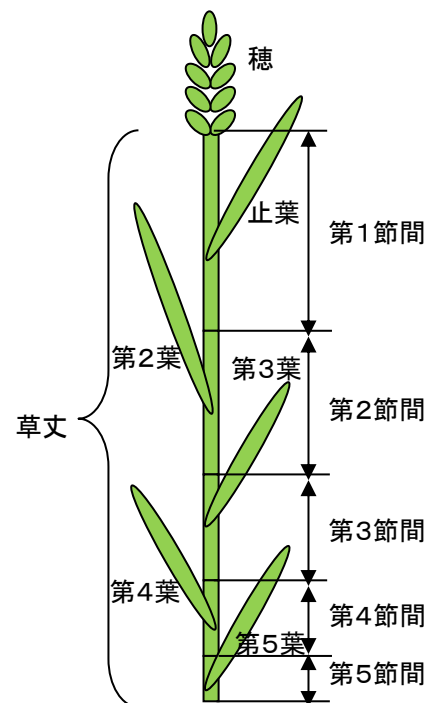


(2) 分施肥体系の場合

●生育量別穂肥の目安(肥料: 追肥3号)

生育量	1回目穂肥(幼穂長1.5cm)					2回目穂肥	
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)
理想	82cm 以下	3.6	葉が ピンと立つ	7/18頃	10kg	1回目 穂肥の 7日後	10~13kg (砂壤土13kg)
やや 過剰	82~ 87cm	3.8 程度	葉がやや 垂れ気味	7/20頃	7kg以内		10kg
過剰	87cm 以上	4.0 以上	葉が メラメラ	施用しない		出穂7日前 (7/25頃)	7~10kg

田植日や圃場条件によって施用時期が異なります。
必ず葉色、幼穂長を確認してから施用しましょう。



【イネの葉と節間】

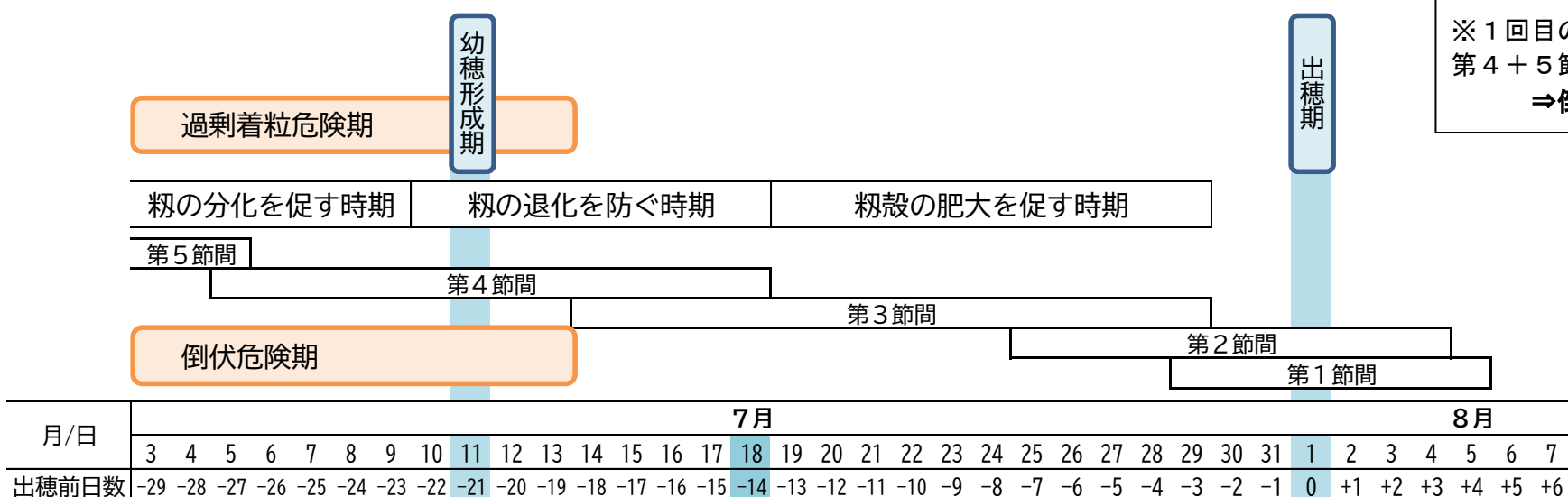
●目標とする節間の長さ

第4節間: 9.0cm 以内

第5節間: 3.5cm 以内

※1回目の穂肥施用時の
第4+5節間が15cm以上
⇒倒伏の危険大!

●コシヒカリの穂肥施用時期の生育状況(5月12日田植え)



コシヒカリの
理想の姿

<幼穂形成期の姿>		<分施肥体系1回目穂肥時期>		<分施肥体系2回目穂肥時期>		<出穂期の姿>	
草丈 cm	72cm	82cm	104cm				
本/ m^2	470本	430本	400本				
本/株 (60株植)	26本	24本	22本				
本/株 (70株植)	22本	20本	19本				
葉色	3.8	3.6	4.3				
幼穂長	2mm	1.5cm	15cm			18.5cm	
節間			9cm			9cm	
第4	2cm	9cm	9cm			9cm	
第5	3.5cm	3.5cm	3.5cm			3.5cm	

穂揃期に
4.2~4.5
(砂壤土4.5)
になるように

3 今後の水管理

参照ページ:p42

【YouTube】
10 中干し後の
水管理



【YouTube】
15 水稲の登熟
期間の水管理



今年の夏も暑くなると予想されています。生育ステージに応じた適切な水管理を徹底しましょう。

●生育ステージに応じた水管理

生育ステージ	幼穂形成期	出穂期	出穂20日後	収穫5～7日前
水管理	飽水管理	湛水管理	間断かん水	
水 量				

出穂までは『飽水管理』
足跡の水がなくなる前に入水し、常に圃場が湿っている状態を保ちましょう。

足跡の水を切らないように

出穂後 20 日間は『湛水管理』
湛水管理により収穫期近くまで葉色が濃く、稲の活力が維持され登熟が向上します。

田面が出ないようにね

収穫前まで『間断かん水』
出穂 20 日後から収穫の 5～7 日前までは間断かん水で稲体の活力を維持しましょう。

こまめな水分補給で最後までがんばるよ!

『飽水管理』 入水後→自然落水→入水（出穂始めまで繰り返す）



「田面の高い部分が隠れる程度まで入水」 「この状態になったら入水」 「この状態は乾きすぎ」

※幼穂形成期から出穂期にかけては、稲の茎葉からの蒸散が多くなる時期で、水分を多く必要とします。
※圃場が乾き過ぎると極端に葉色が下がり、稲体の活力が低下するので、湿潤状態を保ちましょう。

- ・かけ流しを止め、地域全体で計画的に用水を利用することで、下流域まで十分に水が行き渡るよう努めましょう。
- ・フェーンが予想されたら、水不足にならないようあらかじめ入水しましょう。

4 コシヒカリの病虫害防除

参照ページ:p40～41

【YouTube】
14 本田基本防除



- ・今年カメムシ類が管内全域でかなり多く発生しています。防除は遅れず、適期に確実に実施しましょう。
- ・圃場への侵入を防ぐため、薬剤は畦畔にもかかるように散布しましょう。
- ・防除間隔は7日を基本とし、10日以上空けないでください。

令和7年度 斑点米カメムシ類の確認地点率と捕獲頭数 (畦畔・雑草地 アルプス管内 6月24日調査)	
調査地点数	33ヶ所
確認地点率	93.9% (R6: 82.5%)
捕獲頭数	平均 22.5頭 (R6: 10.7頭)



カメムシによる斑点米の被害



防除時期	紋枯病の発生が多い圃場	穂揃期	傾穂期	カメムシが多い圃場
	7月22日（出穂10日前頃）	8月4～6日頃	8月11～13日頃	傾穂期後
粉剤体系	バリダシン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫14日前まで)	ラブサイドキラップ粉剤DL 4kg/10a (収穫14日前まで)	スタークル粉剤DL 3kg/10a (収穫7日前まで)	トレボン粉剤DL 3～4kg/10a (収穫7日前まで)
液剤体系 《通常散布》	バリダシン液剤5 1,000倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 1,000倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 1,000倍 (収穫7日前まで)	トレボン乳剤 1,000倍 (収穫14日前まで)
	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a	散布量: 150L/10a
液剤体系 《空中散布》	バリダシンエアー 8倍 (収穫14日前まで)	ラブサイドK2フロアブル 8倍 (収穫14日前まで)	スタークル液剤10 8倍 (収穫7日前まで)	トレボンエアー 8倍 (収穫14日前まで)
	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a	散布量: 0.8L/10a
対象病虫害	紋枯病	いもち病、カメムシ類、 ウンカ類(※粉剤のみ)	カメムシ類、ウンカ類、 ツマグロヨコバイ	カメムシ類

農作業中の熱中症・事故に注意！ 高温時の作業を避け、こまめな休憩・水分補給を！